

支援事例 ケース11

相談者

東京都大田区在住 30代 女性 生活保護 2005年3月から入居

【相談内容】

精神疾患で、10年近く生活保護を受給している相談者。親とは疎遠の為、単身で生活していましたが、居住物件の老朽化に伴い、役所から転居の許可がおりたそうです。

当初4件の不動産会社へ物件探しに行ったそうですが、全て紹介する物件がないと断られ、もう誰も部屋を貸してくれないのではないかと失望し、部屋に閉じこもって物件探しを止めてしまったそうです。

偶然ネットで当団体の会員企業の相談室を見つけた相談者は、上記を説明した上で、物件探しを手伝ってほしいと依頼されました。

【対応内容】

相談者から話を聞いたところ、①精神疾患と②緊急連絡先不在が部屋を借りられない原因であることを告げられました。

まず、①については行政と連携している不動産会社を調べ、家主と不動産会社が直接相談者と会って話をしてくれそうなところに連絡をして、数件でしたが物件の紹介を頂きました。

②については、疎遠の家族に連絡を入れてもらい、結果としてお兄様が緊急連絡先になってくれることで話が纏まりました。その後紹介された中から最も気に入った物件を選び、転居することになりました。

【相談者様の声】

親から独立した時に転居して以来、これが2度目の引越でしたが、4件の不動産会社から立て続けに部屋の紹介が難しいと言われた時は本当にショックでした。

かといって今の部屋に居続けることもできない為、途方にくれていたのですが、偶然ネットで相談室の内容を見て、断られることを覚悟しながら連絡しました。

途方にくれていた私に対し、相談員の方は根気強くお部屋探しをしてくれた上に、たくさんのアドバイスを頂き、**本当に感謝しています。ありがとうございました。**